

リハビリテーションや看護、医学領域では…
一人の患者さんが生を得て、病い、障がいを経て、そして亡くなっていく。

そういう場面に立ち会う時に、
OT、PT、ST、NS等が患者さんから個人が生きた証みたいなもの
聞いてしまうことがあります。



OT、PT、ST、NS等(聴き手)としてどのような態度で接したらいいのか？



“ナラティブ・アプローチ”

ナラティブ(語り、物語)

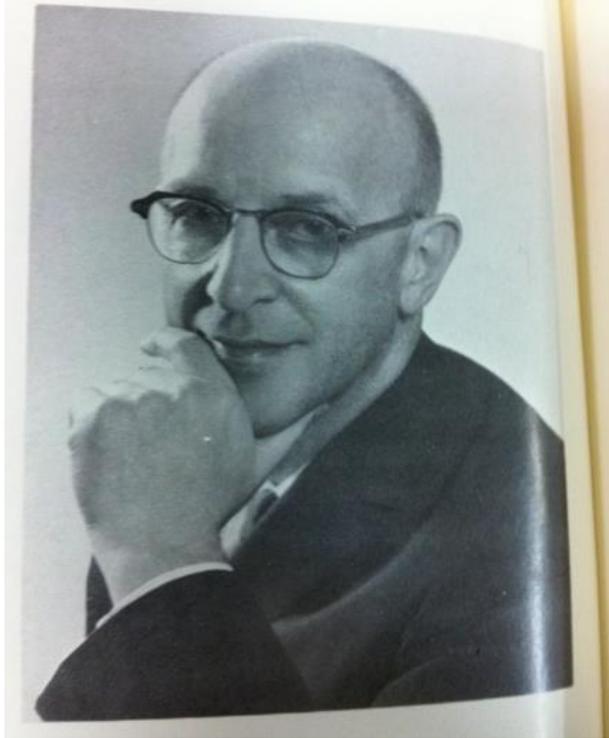
○話を自分のことのように一緒に入り込むこと

○聴き手も相手の物語づくりに参加している

○語りを通じてその人の生活・世界(価値観や“らしさ”)が見えてくる



人生を物語ってもらうことで本人の人生に対する認識を深め、
より有意義な意味のある作業に気付いてもらう心理的援助方法
“自分らしさや人生の中で大切にしていることを探索するきっかけ”



カール・ロジャーズ

(Carl Ransom Rogers, 1902-1987)
アメリカ合衆国の臨床心理学者
来談者中心療法を創始した

クライアント・センタード・アプローチ (来談者中心療法)

- ①“共感”
気持ちを共に感じながら、
 - ②“無条件の肯定的尊重”
相手を信頼・尊重、無条件に肯定し、
 - ③“自己一致”
自分も自分自身でいること。
- 「聴き手に①～③の条件が揃えば、自分の進むべき道筋を自分自身で見つけ出していく能力を持っている」



そういう関係を持つ人間同士のあいだ
では、両者の成長が起こっている

「人は他の人から理解され、わかってもらえたと思った時、心にある変化が生じます。

それが真に自分に向き合う力となり、自らを成長させていきます。」

「カウンセラーは正そうとする前に、相手と寄り添わないといけない」

「自分を素直に出せるなら、今のままの自分で十分です」

「エンパワメントアプローチ」とは？

『自分の人生の主人公となれるように
力をつけて、自分自身の生活や環境を
よりコントロールできるようにしていく』

双方向のエンパワメント

お互いの成長

患者様
クライアント
利用者様

ストレングス
(強み)

NS
OT 支援者 ST
PT